

海の向こうから

第3回青年海外協力隊広島県帰国隊員報告会を開催しました。

去る11月17日(土)に帰国隊員報告会を開催しました。今回は危機管理をテーマに現地で何らかの危機に遭遇したOB・OGをパネリストに迎え、第1部はパネルディスカッションを行い、また、第2部はパネリストを囲んでの茶話会を行いました。



帰国報告会の模様です。



発言中の高見さん

パネリスト、コーディネーター、コメンテーターは以下のとおりで行いました。

パネリスト

田村 智恵：10/3 ソロモン諸島 視聴覚教育

潜水艦で任国脱出をした経歴の持ち主

信国 殊：10/3 ジンバブエ 音楽

南アに一時避難した経歴の持ち主

山本 伸二：4/2 PNG 理数科教師

ヘリコプターで任地を後にした経歴の持ち主

大塚 豊彦：2/1 シリア 水泳

湾岸戦争で任国脱出した経歴の持ち主

高見 夏子：12/1 パキスタン 看護婦

米国の同時多発テロの影響で日本で待機中の山

口県在住の現役隊員

コーディネーター

戸田 喬大：41/2 ラオス バレーボール

皆さんご存知のラオス協会の戸田先生

コメンテーター

駒澤 彰夫：44/1 タンザニア 野菜

JICA中国国際センター所長

以上です。

テロの影響から、テーマを危機管理に絞って見ました。本当に他では聞けない、いろいろな体験をパネリストの皆さんありがとうございました。また、コーディネーターの戸田先生、コメンテーターの駒澤所長、危ない体験話をすばらしいフォローで、報告会をまとめてくださいました。

第2部のパネリストを囲んでの茶話会では、各テーブルで和やかなムードのなか、楽しい会話が繰り広げられました。この報告会にご協力いただいたOB・OGの皆さん本当にお疲れ様でした。最後に報告会を担当していただいた大塚OB、ありがとうございました。

青年海外協力協会（JOC A）中国支部が開所しました



開所式で挨拶する前支部長の香月氏

去る9月8日、広島県庁の自治会館の3階に全国で3番目の支部となる中国支部が開所され、その披露式、記念講演及び記念パーティーが開催されました。

皆さんの中には、JOC Aといってもピンと来ない方もいらっしゃるでしょうが、JOC Aは簡単に言うと、OB会のやっているようなことを、業務としている組織とでも申しましょうか、つまり、OB・OGにとっては身近な存在と言えるでしょう。

ということは、気軽に利用できる場所なので、是非、一度お立ち寄りください。



披露パーティーで挨拶する。

中国支部のメンバー

左から小幡ひとみ、山本真、香月龍太郎です。



講演でのひとコマ

記念講演は、ガーナで野球を教えるなど国際的にも活動している高橋慶彦さんをお招きして、木村宣子理事が聞き手となり、野球を通じた楽しい話を披露していただきました。

新支部長を紹介します



隋林支部長

皆さん今日は、OB・OGの皆様にはご健勝のことと思っています。今年の1月より青年海外協力協会中国支部で仕事をすることになりました。昭和40年（1965年）度協力隊発足当時の1次隊に参加して、ラオス王国に農業指導で活動しました。その後OTCA（現在のJICA）の専門家としても開発途上国の農業開発にいくらかの貢献ができたと考えています。生まれは山県郡戸河内町で名勝三段峡のある町です。家族は4人で、子供2人はそれぞれ結婚しています。当分の間は広島に単身生活をエンジョイすることにしています。新しい広島の良さを再発見できることが楽しみです。過去の経験を生かして、青年海外協力協会の発展と中国支部の基礎づくりをしてみたいと考えていますので、皆様のご協力を重ねてお願いを申し上げます。

近くに来られたら是非気軽に事務所にお立ち寄りください。

青年海外協力協会中国支部長 隋林 吉衛

隊員からの活動報告です。まず、13/1の深林 真理さんからのチュニジア活動報告です。

チュニジア活動報告ーその1ー

こんにちは。皆さんいかにお過ごしでしょうか？

私は、7月10日にここチュニジア入りをして、早2ヶ月が経ちました。

生活の方もだいぶ落ち着きましたので、これから定期的（と言っても不定期になるかもしれませんが...）に、活動報告メールを送らせて頂きたいと思います。

これを読んで、私の活動状況と共に、日本ではあまり知られていないチュニジアを知って頂けたらと思います。

ご意見、感想、質問などがあれば、たくさん送って頂けたら幸いです。

第1号である今回は、私が初めてチュニジアに来ての印象と、私の活動に触れたいと思います。

印象その1 首都（チュニス）はとても都会！！

やはりヨーロッパと目と鼻の先に位置するこの国は、ヨーロッパの影響が強く繁栄しています。日本の新宿のような高層ビル群は無いですが、建物はかなり近代的です。またアラブ圏といえば、女性は肌を見せてはならないと言われていますが、ここ首都の女性たちは、ノースリーブのキャミソールや、ミニスカートをはいています。（首都から離れると、また変わってきますが...）

印象その2 東洋人は目立つ！！

以前フランスの植民地であったことから、フランスを初め、イタリアやドイツからの観光客は多く、混血も多いのですが、さすがに東洋人は少なく、日本人はめだちます。町を歩けば「ジャポネーズ」（フランス語で日本人）コールをたくさん浴びます。

「ジャポネーズ」コールを聞かなかった日はありません。

印象その3 中田選手の知名度にびっくり！！

中田選手の活躍ぶりは、ここチュニジアでも有名で、私たち日本人が歩くと「ジャポネーズ」コールと共に、「ナカタ」コールを浴びます。人構わず「ナカタ」と言ってきます。しかもこの前、チュニジアとイタリアの間でサッカーの親善試合があり、中田がチュニジア初上陸!!

私は残念ながら定価でチケットをゲットすることができず行けなかったのですが、翌日の新聞（もちろんチュニジアのです）の一面に中田の写真入り記事が堂々と載っていました。

印象その4 中国と日本の区別がついていない！！

チュニジア人と知り合うたびに、中国と日本の違いを説明しています。なぜなら、彼らは、日本人と中国人は、同じような顔ということで、言葉も文化も生活も一緒だと思っています。手続きなどで、身分証明書を提示してそこに「日本人」と書いてあるのかかわらず、「中国ではどんな生活してるんだ?」「中国語を話してみてくれ」と言います。その度に私は「日本人だから中国語も話せないし、生活も知らない」と毎回言っています。ここでは、学校で日本と中国と一緒に教えているのでしょうか?と疑問をもってしまいます...。そんなことは無いと思いますが、それほどこの国にとってアジアは遠い未知の世界のようです。

しかもチュニジア人はよく知ってる（つもり!?!）になっていて、「日本でしょ、知ってるよ。東京、空手、柔道・・・カンフー・・・プレスリー・・・ジャッキー・ショーン!!!」結局分かっていません・・・（苦笑）注：フランス語読みでジャッキー・チェーンのことをジャッキー・ショーンと言います。

ここに来て強く感じたことは以上にあげたようなことです。途上国を脱して、先進国の仲間入りをしようと準備している国だけあって、電気、水道、ガス、通信手段などとても発達しており、経済も安定しています。しかし私が気になることは、町中にごみが散らかっていること、しかもごみの分別もしていない。下水道が無いため、汚水がそのまま海に流れ込んでいることなどがあります。これらにももっと力を入れていくべきだと思いました。

あと子供の教育ですね。外国人を見ると（東洋人だからかもしれませんが・・・）野次を飛ばす、石を投げる、スイカを投げる・・・一体親はどういう躰をしているのでしょうか???

ところで話は変わって、私の活動について少々紹介しておきたいと思います。

私は、首都チュニスから車で1時間西に入ったメジェズ・エル・ベブ市で活動をしています。この町にあるスポーツクラブに配属され、そこでバレーボールを教えています。このクラブには、バレーのほかに、チェス、柔道、テコンドー、バスケ、体操があります。柔道では、この前のシドニーオリンピックに出場した選手がおり、体操は、チュニジアの中で一番強いです。バレーに関しては・・・ということなので、支援要請があったのだと思います。

私は、小学生女子チームを受け持ち、月曜日を除く毎日1時間～2時間ほど練習しています。

初心者ばかりなので、ぼちぼち楽しみながらできるメニューを組み練習しています。

チュニジアの子供たちはとても体、関節が固いのでまずは準備体操や柔軟体操をちゃんと教えて、習慣づけさせようと今それに力を入れています。

長くなりましたので今回はこのくらいで終わりたいと思います。

読んで頂いて有難うございました。

深林 真理

勤務先（郵便宛先）: Medjez El Bab Mejerda Sport

Rue 5 Decembre 8070 Medjez El Bab

勤務先 TEL : 08 460 686

E-MAIL : fukamari@qnet.com

帰国直前の11/2の岡平孝司さんからの活動報告です。

ウズベキスタン紹介と今の情勢(2001年10月9日)

青年海外協力隊広島県OB会の皆さん、こんにちは。僕は11年度2次隊でウズベキスタンに派遣された、岡平孝司といえます。職種は日本語教師で、こちらの国立大学で日本語を教えています。ウズベキスタンへは、僕たちの隊次で初めて協力隊が始まりました。僕と、もう一人の日本語教師隊員の二人で、2000年2月28日に派遣されました。2次隊なのにどうしてこのように中途半端な時期になってしまったのかというと、キルギスのJICA職員拉致事件の件で、3ヶ月近く派遣が遅れてしまったためです。ということで、今派遣1年7ヶ月を過ぎ、後5ヶ月で帰国という時期に入っています。

アフガニスタンとアメリカのテロ事件によって世界があわただしくなっている今、この度は、アフガニスタンと少しか国境を接する国である、ウズベキスタンについて少し紹介をしたくてメールしました。日本人にとっては、中央アジアの国々はとても遠くて未知の国であろうと思われます。これが会報「海の向こうから」に載って、読者の方が少しでもこちらの状況を想像していただく材料になればうれしいです。

ウズベキスタンという国は、1991年に、ソ連の崩壊と共に、旧ソ連から独立した共和国で、場所的には中国とヨーロッパを結ぶユーラシア大陸の内陸、シルクロードの通っていたところになります。ちょうどアジアとヨーロッパの間に、長細く位置しています。実際、中央アジアのシルクロード遺跡の70%がこの国にあるといわれています。この国は「スタン」と付くくらいなのでやはりイスラム教国で、ここに一番多い比率で住むウズベク人たちが信仰しています。しかし旧ソ連国だったために未だにロシア人も多く、彼らはキリスト教を信仰しています。しかし、イスラム今日は旧ソ連時代にとっても制限されていたため、独立後盛り返していこうという雰囲気はあるものの、かなり人々の生活から離れてしまっています。コーランを唱えられる人も少なく、1日5回のお祈りはなくなり(中にはまれにしている人もいます)女性は流行の洋服を着て髪を茶色く染め、豚肉もハムなどを食べています。

街並みはロシアに近く、独立して9年たった今もなお社会主義の面影は強く残っています。聖地から遠いイスラム教国、そして旧ソ連の社会主義、それがこの国の特徴ではないかと思えます。

僕は今首都タシケントに住み、そこの大学で教えているのですが、ここタシケントはイスラム的な建物は非常に少ないです。むしろシルクロード遺跡や、イスラム教のモスクが多く並ぶ街並みを期待するなら、地方の街に行ったほうがそれに近いものがあります。タシケントは地下鉄が走り、路面電車が走り、ロシアの古い車が走り、ロシアの建物が並び、モスクも少ないです。

僕は去年の夏休み(2000年の7月と8月)に地方に何回か旅行に行ったのですが、やはりタシケントを出ればそこは砂漠と灌漑の巨大農場が広がり、シルクロードと旧ソ連が同居しています。国土面積は日本の1.4倍程度ですが、そのほとんどは砂漠で、オアシス付近にできた町が栄えて今でも大きな地方都市になっています。たとえばサマルカンド、ブハラといえば、聞いたことがある人もいるかもしれません。ブハラはイスラム教徒にとっては第二のメッカとも呼ばれているところで、アラブ圏のイスラム教徒たちにはよく知られているところです。

先ほどもタシケントの人々の様子を書きましたが、もう少し詳しく書きたいと思えます。この国に一番多い民族はモンゴルとトルコの血をひくウズベク人です。彼らはトルコ語に似たウズベク語を話します。それからアラブ形の言語を話すタジク人も多いです。それからもちろんスラブ系言語を話すロシア人。こちらの言語はかなり複雑な形を持っているけど、英語やドイツ語、フランス語などのヨーロッパ言語に近いです。英語に似た表現、英語に似た単語がいくつかあります。それから驚くことに次に多いのが、韓国人です。彼ら是对戦中に旧ソ連によって強制移住させられた人々で、もう50年くらいもここで生活をしているため、韓国語を忘れてしまっています。ロシア語を母語として流暢に話します。中にはウズベク語を上手に使うものもいます。従って、韓国はここウズベキスタンに大きな援助をしていて、韓国版JICAのKOICAが僕たちと同じような青年ボランティアを送っていて、医療隊員や韓国語教師隊員を多数派遣しています。ここでの僕の友人の中には、そういったKOICA協力隊員もたくさんいて、仲良くさせてもらっています。

他にも、カザフ人、ウイグル人、キルギス人、アゼルバイジャン人と、数えればきりがありません。さらに注目すべきは、タタール人がとても多いということです。タタール人というのは、今もロシア国内にある自治国タタールスタンに多く住む人々で、ウズベキスタンは、タタールスタン以外で、最もタタール人が多い国だといわれています。彼らはもう自分たちの母語である、トルコ語系のタタール語を忘れ、ロシア語だけで生活をしています。顔はロシア人に似ていますが、どこかまた違った血の混ざり方をしているようにも見えます。

街を歩いていると、ここは本当にシルクロードの真ん中なのだなあと思われます。ヨーロッパ系のロシア人、トルコ系のウズベク人、東洋系の韓国人、アラブ系のタジク人、ヨーロッパと中央アジアが複雑に混ざったタタール人。

そういった文化、言語の違う人々が共に暮らし、話す言語はロシア語です。しかし、独立10周年を迎えた今、政府はウズベク語に力を入れているため、公的にもウズベク語が多く使われるようになり、ロシア人にウズベク語で話し掛けるマイペースなウズベク人や、ロシア語の話せない若者なども増えていっています。しかし、公用語はウズベク語となった今も、ロシア語がなければ、この人々の生活は成り立ちません。ウズベク語はウズベク人しか分からないのですから。

独立後、何かと政府はウズベク人だけ優遇する措置を取るため、最近ではいささかウズベク人だけが大きい顔をするようです。そんな中、ロシア人やタタール人、韓国人が仲がいいようです。かといえ、100%のウズベク人なのに、ロシア語しか話せない人がいたりして、何だかよく分かりません。そういう風に、複雑なことになっているのです。

先ほども書きましたが、独立して10年。社会主義経済から市場主義経済に移行して、ウズベキスタンは今とても苦しい状態にあると思います。経済的にも、政治的にもです。今までロシア人のエリートたちに動かされていた国が、急にそういった人たちはロシアに引き上げ、ウズベク人たちだけで国を動かしていこうとすることに、少し無理があるようです。しかし、国が独立して、その嬉しさのあまり、政府の重要なポストなどは、コネのあるウズベク人しか採用されなくなり、政府は裕福なウズベク人たちのおもちゃになっているようです。そして、そのツケは公務員の給料に回り、そのおかげで教育が一番の問題になっています。その点が日本と似ていると思います。

少し暗いことを書きましたが、この国のいいところは、人々が良いということだと思います。地位のある人は、自分たちのことばかり考えて賄賂をむさぼっていますが、そういった地位には就けない一般レベルの人々は、助け合って生きています。その中に、日本人たちが忘れてしまったものを見つけることがあります。

この人々はあいさつをととても大切にします。それから、あいさつの後に必ず健康や仕事のことを聞き、それから家族のことを聞きます。慣れないとあまりにあいさつが長いので苦労しますが、これは彼らが家族や仲間を大切にしていることをうかがわせます。

それから、この若者は年寄りを大切にします。地下鉄やバスでは必ず若者が席を譲り、重い荷物を持っている人が立っていれば、座っている人が荷物を自分の膝に載せて、持ってあげます。そして、立っている人も遠慮せず、荷物を持ってもらっています。

また、日本人はよく気がつきませんが、この人は妊婦にも席を譲ります。僕なんて、よく見落として席を譲るのを忘れてしまいます。

それから、この人はよく知らない道端の人に時間を聞きます。いい腕時計が普及していない理由もあるけど、他にも煙草を吸う人がすれ違い際にマッチを貸してくれないかと聞いてきたり、バス停で待っているととなりのおばさんが話し掛けてきたり、ここでは、他人が赤の他人ではないのです。ましてや、僕はどう見てもここでは外国人です。服装などから容易に判断がつかます。



でも、この人々にとっては、人間は皆仲間であり、同胞であり、友人であるという意識を感じずにはいられません。恥ずかしがるということがないのです。素晴らしいところだなあ、と思うことがあります。

しかし、そういった素晴らしさも、最近では教育の腐敗から、年寄りをないがしろにする若者や周りの迷惑を考えないで地下鉄で暴れる若者、恋人に暴力を振るう男性などが増えていっているそうです。そういった状況を、お年寄りたちや、ちゃんと考えている若者たちが嘆いているのですが、言論の自由のないこの国では、そういった政府の不正や教育問題を批判することができないのです。国の批判をしていることが警察に知れば、その人は捕まってしまうのです。

最近、そんな素晴らしい人々の住む国ウズベキスタンから、若者たちがどんどん脱出しているそうです。しかし、陸沿いに隣の国へ、といったことではありません。英語や韓国語、日本語を勉強して、先進国に逃げるのです。しかし、それにもお金がかかるし、そんなことが可能な若者はほんの一部です。若者はウズベキスタンをとても不満に思っています。もちろん年配の人たちもそうですが、ロシア人やタタール人、韓国人などの民族が逃げたいというのは分かりますが、ウズベク人の若者までウズベキスタンに住みたくないと言っているのです。

そんな中でのアメリカテロ事件でした。この人たちは、むしろアメリカに批判的です。アフガニスタンに戦争を仕掛けて、困るのは一般の住人たちです。この人々は、お金持ちで権力のある人たちがいつも弱い人たちに迷惑を考えないで自分のことだけを考えて行動するという図式をよく知っています。今回の場合も、それを当てはめればいいのです。世界の中でもっとも富んでいるアメリカという国が、アフガニスタンの人々の生活という高い位置からではとても見えないところに対して迷惑をかけようとしている。ウズベキスタンの人々はそう思っています。

世界の先進国、アメリカ、ヨーロッパの一部の国々、東洋の日本、そういった国の人にとって、中央アジア、中近東は想像のしにくいところだと思います。宗教もイスラム教で、考え方も違うと決めがちです。そこには別の価値観を持った人たちが、人間として人間らしく生きており、先進国の人たちが豊かさゆえに忘れてしまった多くの大切で素朴な心を持って生活しているのです。

日本では、一体今回のアフガニスタンをめぐる事件がどう報道されていてどう日本人たちの意識を促しているのかは分かりませんが、日本人が日本のニュースを見て考えただけでは分からない世界が、ユーラシア大陸の真ん中にはあります。

最後になりましたが、とりあえず、今現在ウズベキスタンの国内はとても安定していて、殊に首都タシケントにおいては今までとまったく変わらない生活が続いています。アフガニスタンの人々のことは可哀相だと思いながら、自分たちの生活も決して楽ではないこの人々にとって、考えても何が出来るわけでもなく、ただひたすら今日を生きていくしかないといった感じです。地元のニュースでも、特に取り上げて特集を組んで放送することはありません。

僕たち協力隊は、幸い外務省が中心に在ウズベキスタン大使館とJICA事務所によっていつでも国外脱出できるように手配をしていただいております、何の心配もなく毎日の活動を続けています。今の状況で、何の前兆も無しにウズベキスタン、特にタシケントが被害を受けることは考えられないし、前兆があれば、前兆が起きている間にJICAの処置で帰国することができるでしょう。これだけ、弱い立場の人のことを考えてくれる日本という国は、そういう点で素晴らしい国だといえます。弱い立場の人のことを考える余裕がないウズベキスタン、アフガニスタンを初めとする国は、まだ地球上に多く残されていると思います。と思います。

ウズベキスタン紹介からだいぶ話が変わってしまいましたが、少しはこちらを想像していただく資料になったでしょうか。ずいぶん長いものになってしまって、編集の方、大変かもしれません。適当なところを(中略)などにして適当に使ってください。もしこの僕の書いたものが少しでも会報に載ればうれしいです。

最後に、とても心配してよく電話をくれる家族、それからメールで安否を気遣ってくれる呉市の友人たち、やはり安否を気遣ってくれる母校の姫路獨協大学の恩師の教授の方々にありがたい言葉をもって、ウズベキスタン紹介を閉じたいと思います。

以上、深林さんと岡平さんの活動報告をご紹介いたしました。現在活動中の隊員のみなさん、是非ともみなさんの活動をお知らせください。

—OBとして、みなさんの現在の活動を知るのは、本当に元気がです。(吉田)

12年度 3次隊 新隊員 アンケートのご紹介です

前々回で、紛失してご紹介出来なかったアンケートが、大掃除により無事生還したので、遅れて申し訳ありませんが、ご紹介します。12/3のみなさん申し訳ありませんでした。(吉田)

氏名 派遣国 職種 訓練所 出身地	長岡 順子 コロンビア 日本語教師 駒ヶ根 広島市?	北須賀 淑絵 モンゴル 診療放射線技師 二本松 呉市	藤川 まゆみ インドネシア 日本語教師 二本松 広島市?	高山 みち子 ボリヴィア 保育士 広尾 広島市?
私を一言で言うと...	のんびり焦らない性格です	わが道を行く	自分でもよくわからない	明るくて笑うのが大好き!
私が協力隊に参加しようと思ったのは...	太洋州で日本語教育をやりたいからです...	外国で暮らしたい。外国語をマスターしたい。(今回は時期がベストだと思ったから)	外国で日本語を教えてみたかったことと、学生時代に途上国を旅してとても親切にもらった恩返しがあったから。	高校生の時青年海外協力隊のTVを見て「すごい」と思って
実はこの国に行きたかった	フィジー、ヴァヌアツ、トンガ...	アフリカ「ガーナ」	タイ	海のある国に行きたかった(ボリヴィアは海なし!)
派遣国を知っての第一声または第一印象は?	麻薬、マフィア	面接時に「アフリカに行きたい」と言った力説は...	えーっ!!!	高山病になりそう~!
訓練中、一番厳しかったこと・困ったこと・楽しかったことは?	駒ヶ根の100年に1回といわれた大雪(厳) お酒が飲めなかった事(困) 語学クラスのみな+先生との出会い(楽)	語学訓練(厳) 生活班のメンバーと「そりレース」	毎朝早く起きること(厳) 語学の授業(楽)	とにかく友達がたくさん出来て嬉しかった。野外活動が最高によかった。
任地・任国で何をしたいですか?	サルサを踊りたいです	馬に乗る。馬頭琴を習う。モンゴル料理を習う。	バリ島をくまなく歩きたい	任国の子供たちとたくさん遊んで仲良しになりたい。フォルクローレ楽器(チャランゴ)をマスターするぞ。

新隊員(平成13年度2次隊)いってらっしゃい! あんけーとの紹介です。

氏名 派遣国 職種 訓練所 出身地	三浦 志保里 ジャマイカ 作業療法士 駒ヶ根 音戸町	宮内 謙太 グアテマラ システムエンジニア 駒ヶ根 廿日市市	田中 王恵 タイ 手工芸 二本松 広島市南区	本多 布美子 ラオス 看護婦 二本松 芦品郡新市町	大成 宣彦 ザンビア システムエンジニア 二本松 広島市	田鍬 美紀 ジョルダン 考古学 二本松 広島市	藤田 幸雄 ザンビア 理数科教師 二本松 広島市
私を一言で 言うと...	のんきもの	ずぼら	のんびりや	ちょっと人見知りするけど環境 適応能力はある 方です。	マイペースでわすれっ ぽい。3歩歩いたら全て 忘れてしまいます。	根暗	ねちっこい
私が協力隊 に参加しようと思った のは...	学生の中から興 味が有り、技術 を身に付けたら 行きたいと思っ てました。	海外で自分 の力を試した かったのだ。 で。	O Gの方の お話を聞いて、自分も! と思った。	これまでの経験 を生かしつつ新 たな事をしたか ったから	以前から協力隊事業に は関心を持ってました。 自分の職業であったシ ステムエンジニアとい う職種を募集している ことを知り、参加する ことを決意しました。	インディージ ョーンズ3	英語がしゃべ れるようになり たかった。違 う仕事が出来 たかった。も ともと協力隊 には関心があ った。
実はこの国 に行きたか った	なし	特になし。ど こでもよか った。	はい	中南米。つらい 時は青い海をみ て泣こう...と思 ってました。	いいえ	ジョルダンに 絶対行きたか った。テロがあ っても	パプアニュー ギニア、フィ ジー
派遣国を知 っての第一 声または第 一印象は?	そうか	まずアフリ カ大陸をさ がしました。	いろいろなも のを見てく るぞ!	えー!?どこ?	自分にとっては全く未 知の国でしたので、ザ ンビアについて詳しく知 りたいと思いました。	よかった	どこ?
訓練中、一 番厳しかった こと・困 ったこと・ 楽しかった ことは?	色々な人に会 えて話を聞くの は楽しかった。 スケジュールが詰 まっていたのが 少しづらかった です。	全て語学で す。大変だっ たけど楽し かった。	久々の集団 生活は厳し かったです。 かなりしつ こい友人が 出来うれし かったです。	雨天決行の登 山、嵐の野外訓 練、死ぬかと思 いました。NT Cでの生活その ものが楽しか ったです。	一番厳しかったのは、語 学訓練です。毎日のよう に宿題に追われる日々 でした。楽しかったの は、体育大会、安達太良 登山等のイベントが印 象に残っています。	集団生活	共同生活
任地・任国 で何をしたい ですか?	向こうの子供達 と一緒に何か出 来たらと思って ます。新しい所 なので何か次 につなげる土台 を作れたらと思 っています。	子供と遊び たい。遺跡を めぐりたい。	任地の人々 と小さな喜 びでもいい ので共にわ かちあいた いです。	野良象に乗りた い。何かひとつ でも現地の人 と協力して仕事 をやりたい。	広島風お好み焼きを現 地の食材を用いて作っ てみたいと思います。ま た、作り方を現地の方 に伝授してきたいと思 います。	ベドウィンの テント生活。死 海で浮く。	授業がちゃん とできますよ うに。
あなたにと って青年海 外協力隊と は?一言で いうと?	なにかなあ	ハードルで あり夢	種	珍しい人の集ま り	現地の方に密着したボ ランティア	自分のやりたい ことが協力 隊でしか実現 できなかった ので、一言で 言うとうと何 でしょう...	仕事



前列左から、田中さん、田鍬さん、三浦さん、後列左から、
本多さん、大成さん、藤田さん、宮内さんでした。

今回の新隊員は7名(女性4名)です。

今回も11月27日18:30からサワディーで壮行会
を行いました。今回は、6名の方に出席していただきまし
たが、毎回実施しているアンケートを行い、下記にまとめ
ました。

タイへ派遣される田中さんは、壮行会から現地語学訓練
に入りました。サワディーの津森さんありがとうございました。

次回は4月頃行います。次回もOB・OGの皆さんの参
加をお待ちしております。(吉田)



広島城秋祭りでのコマ

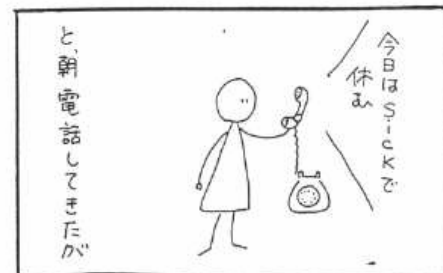
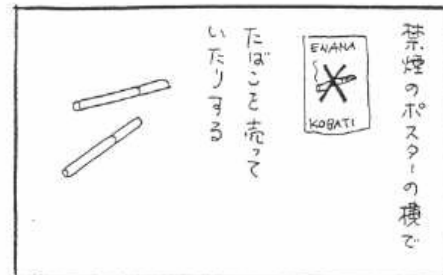
去る10月6・7日に広島城秋祭りを、10月13・14日に西条酒祭りに参加しました。

まず、秋祭りですが、天候にも恵まれ、今年も本当に多くの来場者がいらっしゃいました。カレー、エンパナダなどの販売をしましたが、作れば売れるという忙しい状況でした。

酒祭りは、今年は場所がよかったので、来場者がこれまた多かったのです。衣装展示とラオコーヒーの販売を行いました。酒祭りの中、酒ばかり飲んでいる時の一杯のラオコーヒーは、好評でした。

ということで、ご協力いただいたOB・OGの皆さん、ありがとうございました。秋祭りを担当した、河野さん、田中さん、それに酒祭りを担当した増原さん本当にお疲れ様でした。そして最後に、増原さんのお母さんたち九州からお手伝いありがとうございました。(吉田)

HIROKO KITAGAWA PRESENTS
マシナルばなし
四方山



お知らせ

平成13年度留守家族懇談会及び総会を2月24日(日)に広島市留学生会館(広島駅南口から徒歩5分)で開催します。OB・OGの皆さんの参加をお待ちしております。

また、3月3日(日)に「国際交流・協力の日」として国際会議場全館で様々なイベントが開催されます。OB会としては、紹介展示コーナー(ヒマワリ)でJICAやJOCAと共同スペースで、OB・OGによる相談コーナーを設ける予定ですので、こちらの方にもご協力をお願いします。

編集後記

いやー、今回は疲れました。何とかできてよかった。

いろいろな、ニュースや投稿などをお待ちしておりますので、下記までお送りください。

それでは...

あて先: 〒731-4213

広島県安芸郡熊野町萩原 4059-1-B201

吉田 勝則

E-mail: kuwaku@zb4.so-net.ne.jp